

表現の方法は。【BL】

humineko8383

プロローグ

「生きてるってことは、そんなにいいことだったかい？」

「……、さあね、さっぱりさ」

僕の問いかけに彼が言葉を詰ませたのは、後にも先にもこれっきりだった。

一話。

「なあ、飛行機ってやつは空からどんなものを見てるんだろうね？」

彩画（さいが）は原っぱで寝転がりサンドイッチをくわえながら、
白い尾を伸ばし進む機会を目で追う

「そりゃお前、うざったく見下してるだろうね。地面に縋り付いて存在しているやつらをさ、
ちょうどお前が今日の晩そのブラウスの染みを見るような目でね」

詞（ことは）の言葉に彩画は、はっと飛び上がり自身のブラウスを見る、
ちょうど胸ポケットのあたりにサンドイッチから垂れたケチャップがしみ込んでいた

「あーっ、お前もっと早く言えよな。おちるかな」

そんな彩画に詞は腹を抱えて笑う

「ばっか、そんな寝転びながら食べるからだろう？」

「だってさ？ 今日は空が綺麗だろ、見上げるより寝転んだほうがよっぽど綺麗に見えるじゃないか」

そうって指さされた空は、たしかに快晴と呼ぶに相応しい真っ青な空だ。

ただただ青い空にさっき通った飛行機の雲だけが浮かんでいるのはとても美しい

「あーあ、スケッチブックがあればな」

「おや？ 珍しいないつも大なり小なり持ち歩いてるじゃないか」

「いっつも持ってる小さいのはページがなくなっちゃったんだよ！」

それでもこの空を表現するのをあきらめきれない様子で問う

「なあなあ、お前ならこの空なんて表現する？ 俺は原色の青をチューブのままキャンパスへぶちまけるね！」

「そうだな、俺も『空は絵の具をそのまま叩きつけたような青でそこに一筋白い線を描いたよ
うだ』ってところだ」

「だよなあ！ こんな青空久しぶりでテンションがあがるよ」

子供のようにはしゃぐ彩画に詞は悪戯な顔を浮かべて

「しかし飛行機雲ができるのは雨の前触れだと言うよ？」

彩画はニッと笑顔で

「雨は雨で綺麗だからいいんだよ！」

とはしゃいだ。